

北海道高等学校教育研究会

第33回大会要項

期 日 平成8年1月10日(木)・11日(金)
主 催 北海道高等学校教育研究会
後 援 北 海 道 教 育 委 員 会
札 幌 市 教 育 委 員 会
北 海 道 高 等 学 校 長 協 会

会長あいさつ

北海道高等学校教育研究会
会長 綾井健二

冬の訪れが感じられる季節となりましたが、会員の皆さんにはご健勝にお過ごしのことと存じます。さて、本研究会も各地区支部、教科部会の熱心な取り組みにより、来る1月の大会に向けての諸準備が進められ、この度、第33回大会のご案内を差し上げることになりました。各部会とも充実した内容での開催となっており、これまでの関係各位のご尽力に深く感謝申し上げます。

大会は、研究主題「時代の変化に対応する高等学校教育の創造」のもとに、例年のように、第1日目の全体集会と第2日目の教科別集会で構成されております。

全体集会では、広い視野から時代と人間を考えるために、二人の方に講演をお願いしております。

午前の部の講師は、靈長類学いわゆるサル学の研究者として著名な河合雅雄氏です。日本の靈長類研究は世界をリードする存在ですが、河合氏はそのパイオニアであり、第一人者として知られています。

先生は、靈長類研究は「人間とは何か」という問い合わせに迫るものだとされています。そして、われわれを取り巻く社会や自然が激変しつつある今こそ、人類は他の生物と同じく、長い進化の歴史の所産として今在るのだという認識にたって人間存在を考えなおしてみなければならぬと述べられています。

サル学の研究は、時に危険も伴うような厳しいフィールドワークに支えられていますが、そのような冒險精神に満ちた探検調査の内容は誠に刺激的で興味尽きないものがあります。さらに、そうした過酷な状況下でも、動物や自然を見つめる河合先生の目の優しさや詩情あふれる叙述には心洗われるものがあります。また、自ら「雑木林の思想」と名づけられ、「生きる」ということについて、若い人への味わい深い語りかけもされておりますが、「人間としての在り方生き方に関する教育」が大きな課題とされている今日、先生のお話から貴重な示唆を頂ける機会となるものと思います。

午後の部の講師は北海学園大学人文学部教授の中山燁子氏です。先生は、プロフィールにもありますように、長年にわたって実に多彩な国際活動を続けてこられ、国際文化論をご専門としておられます。特に北海道と気候風土の共通点の多い北欧やカナダ等の国々の生活環境を取り上げ、その背景にある価値観および政策の比較研究を行ってこられました。

また、北海道の総合開発、国際化の推進、青少年の育成、あるいは環境問題など私たちの日々の生活、さらにはこれから時代への展望に深くかかわる幅広い問題について、数多くの審議会の委員として提言をされております。

私たちの生活する北海道という地域性に根ざしながら、同時に国際化等の大きな時代の動きを見通して、そのなかに生きる高校生に必要な資質、能力をどのように育てていったらよいのか。このことは、現在行われている第15期中教審の諮問事項にもあるように、これから教育の在り方にとて大きな課題です。中山先生のお話を通して、これらのことを考える貴重な機会となるものと思います。

第2日目の教科別集会でも実践を深める充実した内容が予定されております。日頃の考えと実践を交流し、新たな視点と意欲を得る機会として、会員の皆様の積極的なご参加を心から期待しております。

第33回 北海道高等学校教育研究大会

○ 研究主題 時代の変化に対応する高等学校教育の創造

第1日目 全体集会 平成8年1月10日(水)

場 所	北海道厚生年金会館(札幌市中央区北1条西12丁目)
日程・講師	9:00~10:00 受付 10:00~10:30 開会式 10:30~12:30 講演 「人間—進化の道からずれた動物」
	京都大学名誉教授 日本福祉大学教授 河合 雅雄氏
	12:30~13:30 (昼 食・休憩) 13:30~15:30 講演 「世界中の日本と日本人」
	北海学園大学人文学部教授 山中 煉子氏

演題 「人間—進化の道からずれた動物」 京都大学名誉教授
日本福祉大学教授 河合 雅雄氏
(かわい まさを)

(プロフィール)

大正13年、兵庫県篠山町生まれ。理学博士。

昭和27年、京都大学理学部動物学科卒業。財団法人日本モンキーセンターの設立に当たる。京都大学靈長類研究所教授、同所長、日本モンキーセンター所長などを経て、現在京都大学名誉教授、日本福祉大学教授・生涯学習センター長。日本モンキーセンター常務理事。兵庫県教育委員。兵庫県立人と自然の博物館館長。

専門：生態学、人類学。サルからヒトへの進化の問題を研究。ゴリラなどサル類調査のためにアフリカ行18回。昭和34年からエチオピア、ケニア、ウガンダ、ルワンダ、ザイール、カメルーン諸国にて調査を行う。ニホンザルの研究で幸島のサルのイモ洗い行動を発見、ゲラダヒヒ、熱帯多雨林のサル、ヒヒ類の調査に取り組む。

朝日賞(昭和43年)、NHK放送文化賞、紫綬褒章(平成2年)、中日文化賞(平成5年)、東海テレビ文化賞(平成6年)受賞。

前日本靈長類学会会長、日本アフリカ学会理事、日本ナイル・エチオピア学会会長。

著書：『サルからヒトへの物語』(小学館)、『ゴリラ探検記』(講談社学術文庫)、『森林がサルを生んだ』(平凡社)、『サルの目ヒトの目』(平凡社)、『人類進化のかくれ里』(平凡社)、『望猿鏡から見た世界』(朝日文庫)、『少年動物誌』(野間児童文芸賞推薦作品賞、福音館書店)、『子どもと自然』(岩波新書)、『人間の由来(上・下)』(毎日出版文化賞、小学館)、『小さな博物誌』(産経児童出版文化賞、筑摩書房)、『学問の冒險』(岩波同時代ライブラリー)など多数。平成7年1月から3月までNHK人間大学「サルからヒトへの進化」(教育テレビ)の講師をつとめられ、草山万兎のペンネームで童話も書かれるなど幅広い活動をされている。

演題 「世界中の日本と日本人」 北海学園大学人文学部教授
山中 煉子氏
(やまなか あきこ)

(プロフィール)

小樽市出身。津田塾大学英文科卒業。

北海道大学経済学部助手、静修短期大学講師などを経て、現在、北海学園大学人文学部教授。

専門：国際文化論。北海道と気候風土の共通点の多い北欧、カナダ等の国々の生活環境即ち価値観および政策の比較研究を行ってきた。

主な公職：北海道開発庁開発審議会特別委員、北海道総合開発委員会委員、北海道科学技術審議会委員、北海道国際化推進委員会副委員長、北海道農政審議会委員、北海道魚政審議会委員、北海道環境アドバイザー、北海道青少年問題協議会委員、他。

主要著作：『北欧の家族と生活』、『北欧・カナダ・ソ連の衣料事情』、『子供の生活I、II、III』、『ホームステイガイドブック』、『北海道の国際化に関する一考察』、『豊かな北海道を目指して—生活環境を考える—』、他。

主な国際活動：国際婦人の10年ナイロビNGO世界会議(1985年)、国際大学婦人連盟世界会議司会者(於: ニュージーランド、1986年)、国際ソロップチミスト日本「千嘉代子賞(国際理解に貢献)」受賞(1987年)、カナダ連邦政府学術助成金を受け渡加(1989年)、米国アーカンソー州リトルロック教育改革視察(1993年)、USIA(アメリカ情報庁)招待による米国高等教育視察(1994年)、英国王立外交研究所、ドイツ外交政策協会、スウェーデン環境研究所及びロシア科学アカデミーで研鑽の後、米国ハーバード大学ライシャワー研究所研究員(1994年)、第4回世界女性会議NGO北京フォーラム招待出席(1995年)など数多くの国際活動をされている。